

令和6年

第2回町議会定例会

行政報告

(令和6年6月6日)

幕別町長 飯田 晴義

令和6年第2回町議会定例会が開催されるに当たり、当面する町政の執行につきましてご報告をさせていただきます。

(定住自立圏共生ビジョンと幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について)

はじめに、定住自立圏共生ビジョンと幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について申し上げます。

平成23年7月に帯広市と管内18町村が締結した「定住自立圏の形成に関する協定」により、帯広市を中心市とする十勝定住自立圏が形成されました。

この圏域における具体的な取組内容につきましては、「十勝定住自立圏共生ビジョン」として策定され、毎年度、各分野における取組状況の効果検証を行っており、現在は第3期共生ビジョンに基づき、取組を進めておりますが、本年度をもって計画期間が終了いたしますことから、次期共生ビジョンの策定作業を今後、進めていくところであります。

また、令和2年3月に策定した「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましても、本年度をもって計画期間が終了するため、住民や産業界・行政機関・大学・金融機関・労働団体等の代表20名で構成する「幕別町創生総合戦略審議会」に諮問のうえ、次期総合戦略を策定することとしております。

今後につきましては、それぞれパブリックコメントの実施などを経て、令和7年度から11年度までの5年間の計画を策定することとしておりますが、「十勝定住自立圏共生ビジョン」については、12月を目途に、総合戦略については来年1月を目途に原案をご報告させていただく予定としているほか、次期共生ビジョンの策定に伴い、「定住自立圏の形成に関する協定」の内容に変更が生じる場合には、来年3月までに協定の変更議案を提案させていただく予定といたしております。

(パリオリンピックマッチオフィシャルの選出について)

次に、パリオリンピックマッチオフィシャルの選出について申し上げます。

本町出身の桑井亜乃さんは、女子7人制ラグビーの日本代表選手として、2016年のリオオリンピックに出場し、2021年に選手を引退した後、レフリーとしてオリンピック出場を目指すため、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会公認レフリーとして活動を始められ、国内外の大会で経験を積まれたことが評価され、このたび、パリオリンピックのマッチオフィシャル（レフリー団）に選出されました。

ラグビー界では、選手とレフリーの両方の立場でオリンピックに出場するのは男女を通じて桑井さんが世界初とのことで、この快挙を受け、5月21日には帰町してご報告をいただいたところであります。

選手としてオリンピックでご活躍された桑井さんが、今度は選手が最高のパフォーマンスを発揮することができる素晴らしい試合づくり、言わば舞台演出をされることを期待するところであります。

（農作物の作況について）

次に、農作物の作況について申し上げます。

本年の4月は、十勝では広尾町を除く18市町村の観測地点で1892年の観測開始以来、最も高い平均気温となったほか、降水量は平年よりもやや多かったこともあり、融雪が早く、概ね平年並みに春作業を終えたところであります。

6月1日現在の農作物の生育状況は、秋まき小麦が、平年より草丈が高いものの茎数は少なく、生育は平年より5日早く、馬鈴しょは、平年より1日早く植付けを終え、生育は平年より1日早く、てん菜は、平年並みに移植作業を終え、生育は平年より4日早くなっております。

このほか、牧草の草丈は平年よりやや高く、生育は平年より4日早い状況で、サイレージ用とうもろこしは平年並みに播種を終え、生育は平年より1日早い状況であり、農作物全般が今のところ順調に生育しておりますことから、この先も天候に恵まれ、稔り豊かな秋が迎えられるよう、心から願っているところであります。

(町営牧場の入牧状況について)

次に、町営牧場の入牧状況について申し上げます。

忠類地区の晩成牧場、共栄牧場及び中当第2牧場については、5月22日から27日までの間において、乳牛560頭と肉用牛75頭を、南勢牧場については、5月16日から25日までの間において、乳牛237頭を受け入れ、町営牧場全体では、872頭の入牧を終えたところであります。

今後、更に、乳牛150頭の入牧が予定されておりますが、事故などが起きないように飼育管理に万全を期してまいります。

(アイヌ文化拠点空間整備事業の進捗状況について)

次に、アイヌ文化拠点空間整備事業の進捗状況について申し上げます。

アイヌ文化拠点空間整備事業として、本年度は生活館棟を、来年度は展示館棟の建設を行う計画のもと、本年4月24日に生活館棟の建築主体、電気設備及び機械設備の各工事の入札執行を予定しておりました。

しかし、入札公告後に、工程や工事内容を再確認した際、地盤改良実施前に必要となる土と固化材の配合試験に必要な期間の確保など、工期の見直しが生じたため、4月19日に建築主体をはじめ、関連する工事の入札を中止したところであります。

その後、改めて生活館棟の建築主体の工期を算定したところ、配合試験に必要な期間を加えると、屋根の仕上げに係る工期が冬期間となり、防水機能強化を図る観点で外気温が5度以上で施工する必要がある工法を採用していることから、冬期間の採暖養生による経費の増額を避けるため、建築主体、電気設備及び機械設備の各工事を2つに分け、鉄筋コンクリート造の基礎及び壁などの躯体部分を令和6年度に、屋根や壁などの仕上げに係る工事を令和7年度に実施することとしたものであります。

このことから、展示館棟につきましては工期の変更はありませんが、生活館棟につきましては、展示館棟と同時期の令和8年3月末に完成となる見込みであります。

(幕別本町地区義務教育学校の学校名案の決定について)

次に、幕別本町地区義務教育学校の学校名案の決定について申し上げます。

昨年11月に策定した「幕別中学校を活用した義務教育学校の設置に係る方針」に基づき、12月に幕別町義務教育学校開校準備委員会を設置し、新たな義務教育学校の学校名の選定について幕別小学校及び幕別中学校で構成する「まくべつ学園」の児童生徒に対しアンケート調査を行ったところであります。

アンケート調査では、令和元年度に小中一貫校が開園してから5年が経過し、「まくべつ学園」の名称が児童生徒や保護者、教職員等に広く浸透していることや、今後、他の小中一貫校においても義務教育学校の設置を検討する場合等を考慮して、現在の学園名を基本とした、「まくべつ学園」、「まくべつ学園義務教育学校」、「まくべつ学園小中学校」の3つから選択する回答方法としたところであります。

アンケート調査は、本年4月に実施し、合計229人の児童生徒のうち、「まくべつ学園」を学校名としてふさわしいとした児童生徒が150人で全体の約66パーセントを占めました。

この結果をもとに、5月7日に開催された「令和6年度第1回幕別町義務教育学校開校準備委員会」において、学校名の案を「まくべつ学園」とすることに決定されたところであります。

このような経過を踏まえ、本定例会において「幕別町立学校設置条例」の一部を改正する条例案をご提案させていただいたところであり、引き続き、令和8年4月の開校を目指して準備を進めてまいりたいと考えております。

以上、当面する諸課題等につきまして、ご報告をさせていただきましたが、議員の皆さんには、引き続き町政の執行に対しまして、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。行政報告とさせていただきます。